

頑張ってます！

OB・OG訪問

生活機能療法学専攻編

「作業療法士 (OT)」は、日常生活において支援が必要な人が、その人らしい生活を送るためのさまざまな能力を維持・改善する手伝いをする医療専門職です。本学では、平成19 (2007) 年のリハビリテーション学科設置とともに作業療法学専攻 (現生活機能療法学専攻) を開設。令和5 (2023) 年までに524人の卒業生を送り出しています。さまざまな医療、福祉の現場で活躍する4人のOB、OGに仕事のやりがいなどを聞きました。(NL編集部) 【2面に続く】

「その人らしく」送る生活支える

本部 栞さん (29) = 2017年卒
訪問看護ステーション「らいふ」 (桜が丘病院)

精神科領域で訪問看護をしています。業務は、利用者の体調確認や生活支援、関連機関との連携など多岐に渡りますが、どの業務も利用者がその人らしく地域生活が送れることを目指しています。

私が特に大事にしているのは会話です。利用者とは話す時は、あくまでも話したいことを話してもらうということを意識しています。そのために、話しやすい環境や雰囲気をつくることにも注意を払っています。体調のことから生活、趣味のことまで様々なことを伺いますが、これは大事だと感じた言葉を火種に、薪をくべ、焚火を育てるようなイメージで会話を育てています。

時には買い物や手続きなど、その人がやりたいけれど難しいことを一緒に行うこともあります。作業療法士は“意味ある作業”を支援する職業です。利用者の自宅や外出先で、その人の生活に密着した“意味ある作業”をサポート出来ることにやりがいを感じています。



利用者の記録を確認しながら担当ケアマネジャーと情報を共有する栞さん

柔軟なプログラムづくりにやりがい



片麻痺患者に上肢・手指機能訓練をする坂田さん。個々の患者に合わせたリハビリのプログラムづくりに余念がない

坂田 潤哉さん (24) 武蔵ヶ丘病院
回復期リハビリテーション病棟で作業療法士として働いています。主に脳血管疾患や整形疾患の患者を対象に、リハビリテーションを行っています。

車椅子で入院してきた人が、歩けるようになって退院する姿を見るのはうれしいですね。患者の皆さんの価値観やこれからの人生に合わせて柔軟にリハビリのプログラムを組み立てていくところに作業療法士としての魅力を感じています。

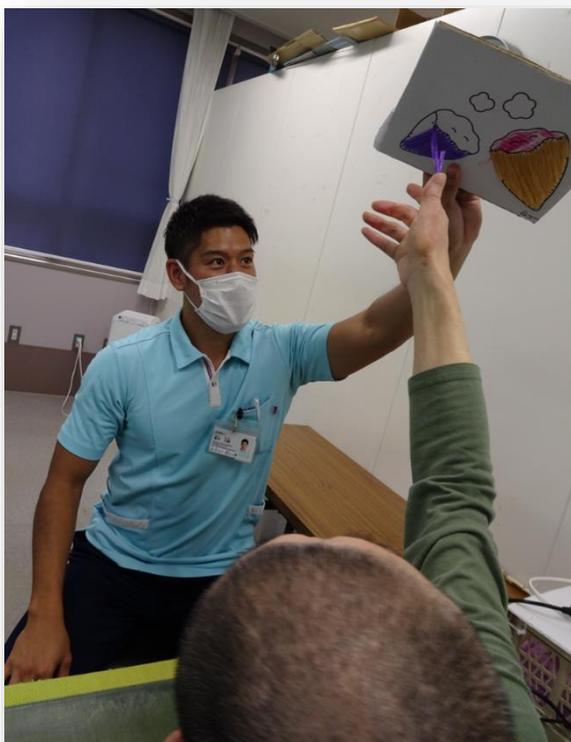
また、医療機器メーカーとの連携した仕事に取り組んでいるほか、キャリアアップを目指して本学の大学院に進学し研究活動にも力を入れるなど、充実した毎日を送っています。

障害児に日常の楽しみ提供

藤井 大樹さん(32) 2013年卒
くまもと声北療育医療センター

入所する脳性麻痺などの重症心身障害児者への作業療法を担当しています。身体機能向上を目的とした訓練を通じ、生きがいとなる日常の楽しみを提供することを目指しています。普段はあまり感情を出さない利用者が、関わりの中でふとした時に満面の笑みを見せた時や、「やってみたいこと」に夢中で取り組む様子を見た時、作業療法士としてのやりがいを感じます。

外来では、地域で暮らしている発達障害児にもかかわっています。訓練を楽しみながらも一生懸命に自分の苦手なことに挑戦している姿、乗り越えて成長していく姿は感動的です。子どもたちの「楽しかった」「また早くきたい」とう声が励みになっています。



秋の制作活動で意欲的に焼き芋を取ろうとしている障害者の上肢機能訓練を行う藤井さん

松本 将平さん(33) = 2013年卒
ケアサポートメロン

私の仕事は、自宅で生活している利用者にはデイサービスへと来てもらい、趣味や今ある能力を十分に発揮できる活動を提供することです。それによって、その人が、望む人たちと望む場所でこれからも生活を送れるようにと願ってさまざまなサポートをしています。

仕事にやりがいを感じるのは、利用者がやりたいことに対して一生懸命に向き合い、それが達成されたときに「ありがとう」と言ってもらえた時です。たとえ上手くいかない時であっても、その過程の中でいただく「たくさん考えてくれたんだね。ありがとう」といった言葉が、落ち込んだ私の背中を押してくれ、日々の成長へとつながっている思いがします。

作業療法士は、利用者の皆さんと互いに感謝し合える素晴らしい仕事です。

利用者の「ありがとう」が励み



「利用者からの感謝の言葉が自分を成長させてくれる」と言う松本さん

多岐にわたる活躍の場…高い国試合格率誇る本学、就職率も100%

作業療法士の活躍の場は、病院、障がい者施設、老人保健施設、訪問介護事業所といった医療、福祉・介護の分野に限らず、労働、保健、教育、司法など多岐にわたります。「作業」は、「人が行うすべての生活行為」を意味しています。その人らしい生活を送る手伝いをする中で、心や体に障害を持つ人々と社会との接点をつくる。作業療法士はそ

んな役割を担っています。

作業療法士になるには、毎年実施される国家試験に合格しなくてはなりません。本学では、きめこまかい指導により、例年、合格率も全国平均を大きく上回っています。2022年度の本学学生の合格率は91.9%(全国平均83.8%)でした。就職率は開学以来100%を誇っています。

子宮頸がん検診受けて！

熊本県による子宮頸がん予防啓発活動の一環として、本学学生へのインタビュー動画の撮影が10月17日（火）、1206会議室で行われ、医療系ボランティアサークルGENERATIONの元部長鬼塚萌愛さん（医学検査学科3年）と元副部長の小田ひよりさん（同）がタレントのえみりーさんから「そうだ♪がん検診に行こう！子宮頸がん編」のインタビューを受けました。

インタビューは、学生からの啓発活動を通して広く子宮頸がんを知ってもらい、若い世代ががん検診に行くきっかけを作るのが狙いです。当初、学生たちは、硬い表情でインタビューを受けていましたが、徐々に緊張がほぐれてくると、にこやかな表情でえみりーさんの質問に答えていました。

10月は、県の「がん検診受診率向上に向けた集中キャンペーン月間」です。22日（日）にえがお健康スタジアムで行われたサッカーJ2 ロアッソ熊本のホームゲームのハーフタイム、本学の学生9人が「そうだ♪がん検診に行こう！」と書かれた横断幕を持って、会場を周回しました。（入試・広報課）

インタビュー動画は次のURLから視聴できます。

<https://kumamoto-kenshin2023.com/>

県キャンペーンに学生協力

インタビュー動画出演／サッカー会場でPR



インタビューに答える鬼塚さん（中央）と小田さん（左）



サッカーJ2 ロアッソ熊本戦のハーフタイム、横断幕を掲げて検診を呼び掛ける学生たち



海外留学生 帰国報告

充実の日々 文化の違い実感



帰国報告を行うコンケン大学に派遣された学生たち

「私の部屋でランチを」が10月25日（水）、キャンパステラスで開催され、今夏、韓国とタイに派遣された海外留学生が帰国報告を行いました。本年度は4年ぶりに対面交流が再開され、4年生にとっては最初で最後の海外研修となりました。

南部雅美国際交流委員長の「おかえりなさい」という言葉から始まった報告会では、Global Student Leadership Program（韓国）、大邱保健大学交換研修（韓国）、コンケン大学交換研修（タイ）に参加した学生計20人がそれぞれの研修ごとに発表を行いました。

研修先での学びや文化の違い、思い出など、様々な報告があり、研修の充実ぶりをうかがうことができました。（学術振興課）

学生ら地域住民の健康チェック

ふれあいフェスタinほくぶ

10月28日（土）に熊本市北区の北部体育館・北部武道館で開催された「ふれあいフェスタinほくぶ」に、本学の学生たちが参加しました。

本学は例年、北区保健こども課、ささえりあ北部と共同で「健康フェア」を担当してきました。コロナ禍のため去年はパネル展示のみでしたが、今回は4年ぶりの測定開催となりました。

この日は、医学検査学科、看護学科の学生計14人が、地域の人たちの健康チェック（血圧測定、体成分測定、骨密度測定）を行いました。101人が測定に訪れ、各測定コーナーでは学生と地域の人たちが身体の調子などについて和やかに話をする姿が見られました。（地域連携委員会事務局）



訪れた人たちの血圧を測定する看護学科の学生たち

協同研究者に支えられ 2 学生緊張の発表

日本臨床衛生検査技師会九州支部主催の第57回医学検査学会が10月21日（土）、22日（日）に佐賀市文化会館で開催され、医学検査学科4年の中山慶亮さんと大学院臨床検査領域1年の河野宏明さんが代表し、他の学生と共同で行ってきた研究の成果を発表しました。

10分間の持ち時間を使い、2人はそれぞれスライドを示しながら緊張の面持ちで発表。会場からの質問にも的確に応じていました。学生たちの指導にあたった正木孝幸教授は「今回の発表内容は獣医学領域のものではあったが、活発な質問を頂き口演した学生並びに聴講した学生にとって良い教育となった」と話していました。（入試・広報課）



発表演題は次の通りです。

「熊本県で育成されたブロイラー盲腸便より得られたESBL産生菌の微生物学的研究」医学検査学科4年・中山慶亮

「熊本県で育成されたブロイラー盲腸便より得られたAmpC産生菌の微生物学的研究」臨床検査領域（修士）1年・河野宏明



中山さん（前列左端）、河野さん（後列左端）と共同研究の学生たち

インフォメーション

週間行事予定（11月14日～11月20日）

11 / 18（土）	学校推薦型選抜（指定校・公募）
11 / 20（月）	健康診断